

令和 7 年 6 月 5 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2024

課題番号：20K02487

研究課題名（和文）「チームとしての学校」を担う教員に求められる資質・能力を構成する概念に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Qualities and Competencies Required of Teachers Promoting "Schools as Teams"

研究代表者

高橋 平徳 (takahashi, yoshinori)

愛媛大学・次世代人材育成拠点・准教授

研究者番号：90612200

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、他の学問領域を含めた先行研究や中央教育審議会答申等を検討するとともに、学校内外の人材と連携・協働している教職員、地域コーディネーターに対するインタビュー調査を実施し分析を行った。
その結果、運営者としての資質能力（コミュニケーション力、チームワーク力、リーダーシップ力）、企画者としての資質能力（状況認識力、意思決定力）、実践者としての軸となる資質能力（連携マインド、ポジティブ思考、自己調整力、省察力）、所属する組織の一員としての資質能力（組織内調整力、組織間調整力）といった要素を含んだ「チームとしての学校」を担う教員に必要な資質・能力を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「チームとしての学校」を実現するために求められる資質・能力の構成概念を明らかにしたことで、本研究の成果は、教員志望の学生を対象とした授業や活動、リフレクションに活用され、教員養成カリキュラムの改善にもつながっている。今後は、これらの成果を踏まえて、養成段階における資質・能力の育成内容や方法の具体化、学習成果の評価指標の作成に取り組むとともに、現職教員がその資質・能力をさらに高めるための研修プログラムや、協働を促進する職場環境の整備、学校と地域の共通理解の醸成など、「チームとしての学校」の実現と継続的な改善に貢献する研究へと発展させていきたい。

研究成果の概要（英文）：This study reviewed previous research in other academic fields and reports from the Central Council for Education, and conducted interviews with teachers and regional coordinators who collaborate with people both inside and outside schools. The results revealed the qualities and abilities necessary for teachers to serve as "schools as teams," including qualities and abilities as managers (communication skills, teamwork skills, leadership skills), qualities and abilities as planners (situational awareness, decision-making skills), and core qualities and abilities as practitioners (cooperative mindset, positive thinking, self-regulation, and reflection), and organizational member competencies (intra-organizational coordination and inter-organizational coordination).

研究分野：教員養成

キーワード：チームとしての学校 コミュニティ・スクール 学校と地域の連携 教員に求められる資質能力 専門職連携 専門職連携教育

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

「チームとしての学校」による教育の改善への実践が求められているに関わらず、それを中核として担う教員に求められる資質・能力の内実は不明確で、研究はほとんど蓄積されていない状況にある。

「チームとしての学校」を遂行するための資質・能力の構成概念が解明されることにより、学士段階での資質・能力養成内容・方法の提示や、学習成果測定指標の作成はもちろん、現任教員がその資質・能力をより高めるための研修内容や職場作りの方法等、より理論的かつ具体的な「チームとしての学校」の実現や改善に貢献する研究へとつなげることができ、当該分野での礎として貢献できると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、「チームとしての学校」を運営していく上で、それを中核として担う教員に求められる資質・能力というものが、いかなる概念から構成されているのかを明らかにすることを目指す。

3. 研究の方法

本研究では、他分野の学問領域における先行研究や中央教育審議会のこれまでの答申等を踏まえつつ、保護者や地域との連携・協働に高い能力を有すると同僚から評価されている教員および地域コーディネーターに対してインタビュー調査を実施し、その結果を分析した。

インタビュー協力者は、教員6名および地域コーディネーター4名の計10名である。対象者は研究者のネットワークを通じて内諾を得た後、スノーボール・サンプリング法を用いて段階的に拡大した。

調査項目は、協力者の基礎的情報、「チームとしての学校」に関わる職務内容および行動、「チームとしての学校」を可能とする資質・能力等である。調査は協力者の負担軽減を考慮し、インタビューガイドに基づく半構造化インタビュー形式で実施した。インタビューは、2021年10月から2025年3月にかけて実施され、1名あたり約1時間、協力者の職場の会議室等で行った（なお、2021年の調査は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、Zoomによる遠隔インタビューにて実施した）。本研究におけるインタビュー調査は、愛媛大学教育・学生支援機構研究倫理委員会の承認を得た上で実施している。

分析にあたっては、協力者から同意を得た上で録音したインタビュー音声から逐語録を作成した。研究者が逐語録を繰り返し精読し、内容および文脈を把握した上で、グラウンデッド・セオリー・アプローチ (Corbin and Strauss, 2008) の手法を参考にしながら、信頼性と妥当性を確保した分析を行った。

4. 研究成果

分析の結果、30のサブカテゴリから11のカテゴリ、さらに4つのコアカテゴリが生成された。これにより、「チームとしての学校」を担う教員に求められる資質・能力として、以下の要素が明らかとなった。

すなわち、運営者としての資質・能力（コミュニケーション力、チームワーク力、リーダーシップ力）、企画者としての資質・能力（状況認識力、意思決定力）、実践者としての基盤となる資質・能力（連携マインド、ポジティブ思考、自己調整力、省察力）、所属組織の一員としての資質・能力（組織内調整力、組織間調整力）である。これらの具体的な内容については、今後、教員養成系の学会発表や論文等において発表していく予定である。

本研究の成果は、教員志望学生を対象とした授業・教育活動・リフレクションの場に活用されており、教員養成カリキュラムの改善にも寄与している。また、社会教育主事および社会教育士を養成する社会教育主事講習においても、受講者に本研究の成果を紹介することで、学校と地域の連携・協働の促進に貢献していると考えられる。

さらに、本研究の過程において、多様な実践者との出会いを通じて研究者のネットワークを大きく拡張できたことも、重要な成果の一つである。当初は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学校および地域における活動の停止や、インタビュー調査の実施困難といった制約が長期にわたり続き、研究の進捗に大きな影響を及ぼした。しかしながら、活動再開後には、遠隔開催も含む「チームとしての学校」やコミュニティ・スクールに関する報告会、学習会、シンポジウムへの参加、さらには実践の視察や参画を通じて、研究者としての視野とネットワークを一層広げることができた。

本研究は一旦終了を迎えるが、これまでに構築したネットワークを今後も活用し、引き続き多様な活動や協議会、報告会等への参画、視察、インタビュー調査を継続的に行うことで、研究の発展を図っていく。

今後は、以上の成果を基に、教員養成段階における資質・能力の育成内容および育成方法の具体化、学習成果を評価する指標の作成に取り組むとともに、現職教員がその資質・能力をさらに

高めるための研修プログラムの開発や、協働を促進する職場環境の整備、学校と地域との共通理解の醸成など、「チームとしての学校」の実現と継続的な改善に貢献する研究へと発展させていきたい。

<参考文献>

Corbin, J. & Strauss, A. L. (2008) *Basics of Qualitative Research: Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory* (3rd ed), Sage (操華子・森岡崇訳『質的研究の基礎: グラウンデッド・セオリー開発の技法と手段 (第3版)』医学書院, 2012).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 高橋平徳, 白松賢	4. 巻 23
2. 論文標題 学生企画型学校体験活動を通しての教員志望学生の成長に関する一考察 わくわくチャレンジサタデー 米での活動をもとに	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大学教育実践ジャーナル	6. 最初と最後の頁 69-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋平徳, 日野克博, 徳田義実, 二宮啓, 高木啓吾	4. 巻 22
2. 論文標題 withコロナ時代における学生宿泊型教育体験活動の試み-2021年度, 2022年度「リーダー村」での活動より	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大学教育実践ジャーナル	6. 最初と最後の頁 91,101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋平徳, 白松賢	4. 巻 21
2. 論文標題 教職課程ディプロマ・ポリシー到達度自己評価尺度を活用した学修成果についての考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大学教育実践ジャーナル	6. 最初と最後の頁 11, 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋平徳, 藤原一弘, 班#23159;, 梅田崇広, 白松賢, 中尾茂樹, 山田誠	4. 巻 71
2. 論文標題 社会教育主事講習における現地演習の取組と成果: 愛媛大学での実践事例より	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 愛媛大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 199, 209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高橋平徳, 白松賢
2. 発表標題 学生企画型学校体験活動を通しての教員志望学生の成長に関する一考察
3. 学会等名 令和5年度日本教育大学協会研究集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋平徳, 日野克博, 徳田義実, 二宮啓, 高木啓吾
2. 発表標題 「これからの教員に求められる資質能力」の育成を目指す「伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村」の成果と課題に関する研究
3. 学会等名 令和4年度日本教育大学協会研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋平徳, 藤原一弘, 班婷, 梅田崇広, 白松賢, 中尾茂樹, 山田誠
2. 発表標題 社会教育主事講習における現地演習の取組と成果 - 愛媛大学での実践事例より -
3. 学会等名 第71回日本社会教育学会研究大会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------